

講義名	対)リーダシップ養成 A				授業形態	
担当教員	南木 睦彦 / 石黒 太	開講期・曜日・時限	前期集中 その他 その他			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング

主題と概要

リーダシップ論等を学び、グループで活動することを通して、自らの特徴を生かしてリーダシップを発揮する力を養う。
まず、リーダシップとは何かを学ぶ。次に「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」での体験や成果を共有して、オープンキャンパス等での展示の素案を作成する。最後に自らのリーダシップの特徴を記述する。授業時間外に「オープンキャンパス」等で活動する。
この科目と共に後期の科目である「リーダシップ養成B」も受講し、「自己発見とキャリア開発A」のCAとしての能力向上をしていただくことも期待している。CAとして登録されない場合でも、本学の様々な活動の場面でリーダシップを発揮することを期待している。

到達目標

- ・自分自身の特徴を生かしたリーダシップを発揮することができる
- ・「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる。
- ・授業終了後、オープンキャンパス等でリーダシップを発揮して活動することができる。

提出課題

様々なワークシートを授業内で作成する。
「自己発見とキャリア開発」の体験や成果を示したオープンキャンパス等での展示プランを作成する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

成果物や提出物は、授業中に講評・解説する。
オープンキャンパス等での展示時は、実際の参観者の反応により、フィードバックを受ける。

評価の基準

授業への積極的な参加と成果物の出来栄で評価する。なお、夏休み中に1回程度ミーティングを行う可能性がある。また夏休み期間中のオープンキャンパスで、この科目で身に付けたリーダシップを発揮したかどうか、評価に加味する。つまり、これらの授業時間外活動への参画の度合いにより、前期に付けた成績を修正する場合がある。

履修にあたっての注意・助言他

授業終了後も、ミーティングや活動を行うこともあり、授業時間外の「学習時間」が相当長くなるので、あらかじめ心づもりをしようで受講すること。

教科書

.使用しない.

参考図書

.なし.

その他

授業中に配布する

授業計画

シラバス執筆時の予定であり、受講生数等により変更する可能性があります
第1日
1. リーダシップとは何か
2-4. グループで「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」での体験や成果を共有、発表
4-5. 合意形成・意思決定の手法・演習
第2日
1オープンキャンパス展示の意義・これまでの事例の紹介
2-4. グループで分担し、オープンキャンパス等での「展示」素案作成、発表
5. プレゼンテーション演習
第3日
1-3. 自己分析とリーダシップ
4. 自分自身や他のメンバーのリーダシップの特徴
5. 全体まとめと今後の予定の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション	☐	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

学期ならびに大学設置基準では1回の講義について4時間の自己学習が必要とされている。この授業で得た力を発揮する場として「オープンキャンパス」を用意している。授業終了後も、夏休みに1回のミーティングをするほか、オープンキャンパスの前日準備、当日の来訪者への説明などを行う。その多くは科目終了後になるが、広い意味での授業時間外の「学習時間」は相当長くなる。これらの授業時間外活動への参画の度合いにより、前期に付けた成績を修正する場合がある。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学の学生が、卒業時に共通して身に付けていることを求められている能力と本科目の到達目標は次のように関連している。
「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる」という目標は、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の要素である。情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力と関連している。
「自分自身の特徴を生かしたリーダシップを発揮することができる」「授業終了後、オープンキャンパス等でリーダシップを発揮して活動することができる。」という到達目標は「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」としての能力養成と関連している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

受講生間ならびに、担当教員と受講生の、相互啓発的な双方向授業を実施する。具体的には、課題解決型学習、グループワーク、プレゼンテーションさらに、授業終了後の実習が含まれている。

実務経験の有無及び活用

備考

この授業は、グループでの対面での活動を前提としている。新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生への対応については、集中講義で継続的にグループで活動するという科目の性格上対応が困難である。全くの別途課題を与えるなどの方法を考えてるので、個別に相談して代替方法を考えることとする。